

森の若返りで生き物が元気になった！

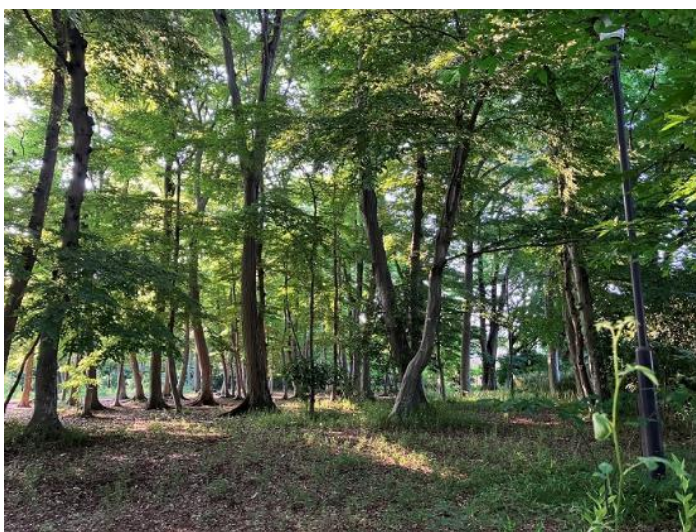
NPO法人市民まちづくり会議・むさしの
武蔵野の森を育てる会

1. はじめにー武蔵野の雑木林を継承する境山野緑地（独歩の森）ー

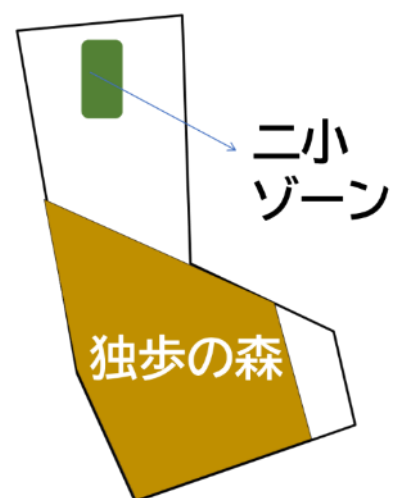
武蔵野市境4丁目には、雑木林を主体とする武蔵野市立 さかいさんやりよくち 境山野緑地（約1ha）があります。北側半分は都立武蔵野青年の家の跡地（以下、青年の家跡地）です。南側半分は明治の文豪・国木田独歩の作品『武蔵野』にゆかりがあるので、地域の人たちは「独歩の森」と呼んで親しんできました。

青年の家跡地には、武蔵野の森を育てる会と市立第二小学校の児童が植樹した「二小ゾーン」と呼ばれる雑木林があります。一方、「独歩の森」は江戸時代からつづく雑木林で、かつては落ち葉を集めて腐葉土にしたり、薪や炭を確保するために萌芽更新（次頁参照）という方法で循環的に利用したりしていました。現在は雑木林としての利用が無くなったので、全体が高木化しています。

ここでは、二小ゾーンと独歩の森（一部区域）の若返りによって、生物多様性が飛躍的に向上した様子をお伝えします。



緑陰の境山野緑地（独歩の森の南側から撮影）



境山野緑地の平面図

雑木林の維持管理—萌芽更新のサイクル—



武蔵野の雑木林の維持管理法

雑木林は10~20年のサイクルで伐採して薪や炭を確保していました。切り株から芽（萌芽）が出て、また元のような林に戻るのです。萌芽を育てて林を更新していくことから、このような方法を萌芽更新と呼びます。【上図参照】

萌芽が育つためには十分な光が必要なため、予め決めた範囲の木をすべて伐採（皆伐）して更新していました。毎年場所を変えて順番に伐っていたので、さまざまな樹齢の区域がモザイク状になり、その多様な環境に適応してさまざまな生物が生息していたのです。

コナラ、クヌギといったドングリの木を中心とする上記のような武蔵野台地の雑木林を、武蔵野の雑木林といいます。独歩の森は武蔵野の雑木林を継承するものです。

2. 「二小ゾーン」の萌芽更新―若返り1―

独歩の森が高木化・老木化してきたので、雑木林の保全手法を検証するため、2019年2月、武蔵野市と武蔵野の森を育てる会との協働により、「二小ゾーン」の萌芽更新を行いました。その結果、見事に再生しました。

下記の①～③が皆伐前から現在までの経過です。

樹木をすべて伐採(皆伐)したら見事に再生しました



- ①2018年7月
伐採前
- ②2019年2月
伐採直後
- ③2025年8月
伐採後5年半

再生の秘訣は、切り株から萌芽が出て、木がぐんぐん育つことです



5月3日 可愛い萌芽



5月18日 ニョキニョキ



6月18日 ポーポー



11月5日 3m超え！

3. ナラ枯れから再生へ―若返り2―

2020年夏～2021年秋、高木化した独歩の森のコナラがナラ枯れに襲われました。これは、カシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）という小さな甲虫が、高く太いコナラ等の木を好んで大量に入り込んで枯らしてしまう現象です。

そのため、地元の西部コミセンで地域フォーラム「独歩の森のナラ枯れを考える」（2021年11～12月、4回連続）を開催して多くの市民で学びあい、知恵を出しあうとともに、武蔵野市の担当課との丁寧な協議を重ねました。

2022年2～3月、ナラ枯れ被害のあった木を中心に一部区域を伐採し、その跡地に70名の市民が結集して独歩の森で採れたコナラとクヌギのドングリを播きました。

ドングリは順調に育ち、2025年夏には2mを超えています。チョウやトンボなどの多様な昆虫もやってきて生物多様性の宝庫になっています。



カシナガが大量に入るので、フラス(木くず)が根元に溜ります



落ち葉の季節でもないのに、冬枯れのような光景です

← コナラが次々と枯れていきました



伐採した区域に 70 人の市民が結集し、みんなでドングリを播きました



ドングリを播いたあと、静まり返った再生地。地中では発芽への準備が着々と...



3 年半後、2m を超えるまでに成長した、コナラとクヌギ (2025 年 8 月)

4. 若返りの効果—多様な生き物の到来—

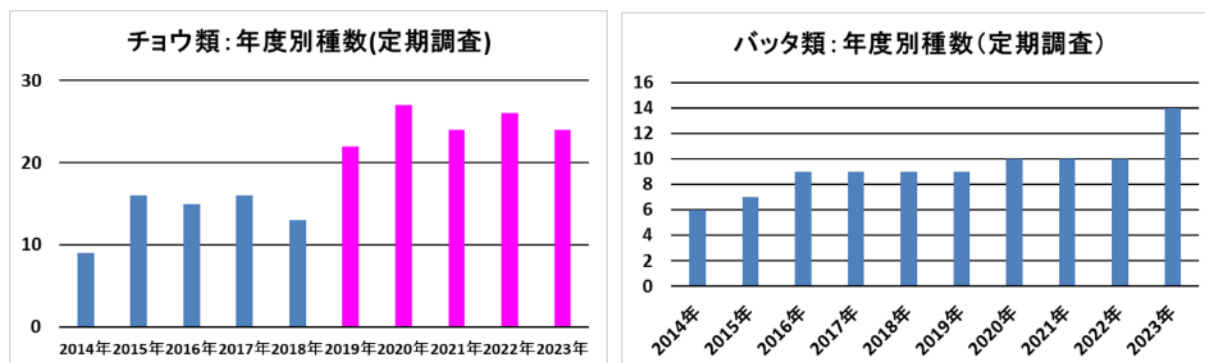
樹木の更新によって雑木林の若返りが進んでいる二小ゾーンと独歩の森の伐採区域を中心に、境山野緑地に多様な生き物が訪れるようになりました。境山野緑地の生き物の種数変化を表すと、いずれも大幅に増えています。

	更新前5年間合計 (2014-2018年)		更新後5年を加えた 10年間合計 (2019-2023年)
鳥類	24		39
バッタ類	16		24
チョウ類	27		44
トンボ類	6		22

(注1) 武蔵野の森を育てる会が毎月実施している定期調査と担当者が日常観察しながら確認している不定期調査の結果を合わせた数値。

(注2) これまでの10年間の調査から、東京都レッドリスト掲載種(希少種)は50種程度確認されています。

次に、チョウ類とバッタ類を例にとり、毎月の定期調査の結果から経年変化をみるとグラフのとおりです。どちらも2019年以降は増加していますが、とくにチョウ類は二小ゾーンを皆伐した2019年と翌2020年、バッタ類は独歩の森を一部伐採した翌年の2023年に大幅に増えています。



以上のように、雑木林の伐採による若返りは生物多様性の向上に大きく寄与することが分かります。若返りによって境山野緑地に新しくやってきた生き物の一部を事例として次頁に掲載します。

5. 武蔵野の雑木林を未来へつなぐために

これからも多様な生き物が暮らしていけるよう、順次、樹木の更新などの適切な保全を行い、生物多様性の高い緑地としての自然環境を未来へとつないでいきたいものです。そのために、武蔵野市との協働を基本とし、子どもから大人まで多くの市民の方々と楽しく交流しながら森の手入れをしていきたいと思います。

こんな生き物が新たに訪れました

検証地で樹木の更新をはじめた2019年以降に境山野緑地(独歩の森)を訪れた生き物の中から、主なものを紹介すると、次のとおりです。(すべて境山野緑地(独歩の森)で写した写真です)

鳥類



モズ



アオジ



ハクセキレイ



モンキチョウ



ヒメアカタテハ



ゴマダラチョウ

チョウ類



ショウリョウバッタモドキ



コバネイナゴ



ヒナバッタ



ハグロトンボ



コオニヤンマ



ギンヤンマ

トンボ類



トラフガミキリ



キスジトラガミキリ



ヒゲブトハナムグリ

甲虫類



ミスイロオナガシジミ



アカシジミ



ウラナミアカシジミ

ゼフィルス

ゼフィルスとは樹上性のシジミチョウ科の一群を指し、若い雑木林で暮らすため、これが境山野緑地にやってきたのは樹木更新の大きな成果といえます。